くまびょうNEWS
125号
くまびょう NEWS
2007年11月1日
[発行所]
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL(096)353-6501(代)
FAX(096)325-2519

平成19年度 第1回（通算第23回）
開放型病院連絡会開催される

福田稠委員長のご挨拶

平成19年度第１回開放型病院連絡会は、登録医の先生方をはじめ看護師、ソーシャルワーカー、事務の方なども含めて多数の皆様に参加して頂き、９月26日19時よりくまもと県民交流館（鶴屋東館）パレアホールにて開催されました。開始に当たり、宮﨑院長がご参加の皆様に日頃のご協力と連絡会へのご出席にお礼を述べた後、新病院建築工事の進捗状況、内視鏡室の拡充、手術室の増設、血管造影装置の更新など病院の現状について報告致しました。続いて、開放型病院運営協議会委員長の熊本市医師会長福田稠先生より挨拶を頂きました。福田先生は、開放型病院はシームレスな医療を提供するために不可欠なものになってきたが、さらにきめ細やかなサービスが必要であることを強調されました。つづく全体会議は熊本市医師会理事の田中英一先生と池井が進行を担当し、まず清川部長が患者様を紹介頂く際の「FAXによる時間予約システム」を紹介しました。平日（月～金）８時30分から17時の間に患者様紹介のFAXを頂きますと、10分以内に診察日と時間をFAXで返信するシステムです。続いて症例紹介として外科の大堂医長が「外科における外来化学療法」で当院の外来化学療法の実際を報告し、形成外科の大島医長が「２歳児Run Over Injuryによる多発外傷の治療経験」で極めて重症の外傷を負った小児の治療経験を提示し、大きな反響がありました。引き続き「病診・病病連携のあり方」というテーマでパネルディスカッションを行い、４名の先生にご発言頂きました。家村明日朗先生（内科）は日頃の病診連携時の対応について、金澤親良先生（整形外科・リハビリ）は大腿骨頚部骨折医療連携クリティカルパスの使用の現状と併存症への対応のご希望を、山口英治先生（内科）は紹介患者への対応と画像診断検査申し込みの経験を、高橋禎先生（歯科）は歯科における病診連携、歯科臨床研修等についてご意見を頂きました。これらのご提言を活かして開放型病院としてより良い医療を目指したいと存じます。またフロアから熊本市歯科医師会会長の古賀明先生よりコメントを頂きました。

総会終了後、会場を鶴屋ホールに移し懇親会を開催しました。熊本市医師会長の福田稠先生にご挨拶と乾杯の音頭を取って頂き開宴しました。ご出席頂きました皆様には病（医）院名とお名前の名札を用意していましたが、医師以外の出席者も多くなったので、他の施設の同じ職種の人と意見交換が出来るように、職名も記載して欲しいとのご意見を頂きました。次回から取り入れたいと存じます。当院からの参加者も積極的に先生方と意見交換を行い、多くの人々と知り合いになることが出来ました。これからも職員全員で病病・病診連携がさらに充実するように取り組む所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

（副院長　池井　聰）

パネルディスカッションの風景

都会の僻地

わだ内科クリニック
院長 和田　敏

当院は、市中心街から数キロしかない熊本のシンボル金峰山と花岡山の間にある、看護師2人、事務員2人のちいさな無床のクリニックである。熊本市ではあるが交通の便は悪く、バスは1日数本しかなく、山岳部のため坂道が多く、歩くのすら困難を要する。そのため患者さんは通院にマイカーかタクシーを利用する以外方法がなく。それもかなわない人達は往診、もしくは訪問診療となる。したがって往診、訪問診療の占める割合がどうしても多くなる。街中ならよいが金峰山の山中では時には、Uターンも出来ない場所への往診依頼もあり、先日はがけ崩れのため道が通行止めとなり汗をかきかき看護師と2人で山道を重い往診カバンをさげ毒蛇の代表であるマムシ、ムカデのいる遠い道のりを歩くことを余儀なくされた。このようなことも度々である。急を要する患者の依頼の場合、夏には洪水、冬には路面凍結といろいろ自然のハードルがたちはだかり簡単にはいかない。そのうえに深夜ともなれば、周囲に家もなく人通りもないため道を尋ねることさえできない。ましてや、在宅で終末期医療を希望される患者さんの場合、1日数回の往診を要し、訪問が困難な場所では無理な事が多い。スタッフ少数の為通常の外来、検査をこなしながら往診は、当院のように少人数のスタッフのクリニックではこんな場合大忙しである。看護師とともに交替、交替なんとかこなしてきた。

それでもどうしようもない場合がある。例えば、吐血、下血など輸血の必要な場合、転倒などによる手術の必要な骨折、この場合頼りになるのが国立病院機構熊本医療センターである。外科、内科、整形外科をはじめ、精神科など総合的に加療して頂ける病院が近くにあり、どうしようもないとき救急車の搬送であっても、気持ちよく受け入れてくれる国立病院は最後の救いとなっている。国立病院様々である。

南カリフォルニア大学病院副院長ヘーゲン先生をお迎えしての症例検討会および講演会のご案内

ヘーゲン博士

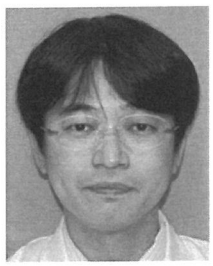
ロサンゼルスのダウンタウンにある南カリフォルニア大学は、診療面、研究面で国際的評価が高く、世界中から医療スタッフ、研究スタッフが集まってきています。また、医学教育も非常に充実しており、レジデント応募の競争率は数十倍にも達しています。米国の医学生からの人気が非常に高く、レジデントになるのが最も難しい病院の一つと言われています。

今回、国立病院機構熊本医療センターでは、2005年に引き続き、同大学病院副院長（レジデント教育担当）であるジェフリー・ヘーゲン先生をお迎えして、主に研修医およびレジデントを対象に下記のように症例検討会と講演会を開催致します。ヘーゲン先生は、食道外科医として、同時に医学教育のエキスパートとして世界的に有名で、全米で講演活動やワークショップを数多く行っています。ご参加を希望される先生は下記宛お申込みをお願いします。

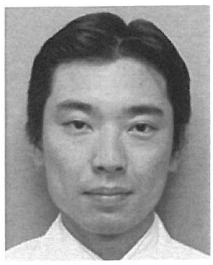
（外科医長　芳賀　克夫）

- **症例検討会**：11月5日(月)～8日(木) 14：00～16：00　場所：研修棟4F／カンファレンス室
- **講　演　会**：①11月5日（月）18：00～19：00　研修棟4F
  「ロサンゼルス・カウンティ・ホスピタルに於ける緊急手術」
  ②11月6日（火）18：00～19：00　研修棟4F
  「外傷患者の救急処置ATLSの概念」

問合せ先：国立病院機構熊本医療センター管理課（担当：永友）
〒860-0008　熊本市二の丸1番5号　TEL:096-353-6501（代）内線745
E-mail:nagatomo@kumamoto.hosp.go.jp



青木　浩則
眼科一般、角膜疾患、眼感染症
日本眼科学会認定専門医



高野　晃臣
眼科一般、白内障
網膜硝子体疾患
日本眼科学会認定専門医

久高　久美子
眼科一般、白内障
ぶどう膜炎

診療内容と特色

眼科は現在医師3名で診療しています。診察は小児から高齢者に至る、多岐にわたる眼疾患に対応いたします。

手術では、2001年から網膜硝子体手術機器を整備し糖尿病網膜症など硝子体疾患に対しての手術を行っています。

入院では、入院患者の約95%以上にクリティカルパスを使用して効率的な医療を行い、患者様に喜ばれています。

総合病院の眼科の特色を生かして、全身疾患に合併した眼疾患の入院治療および精神科疾患を有する患者様や透析の必要な患者様の入院手術にも取り組んでいます。

これからも良質の医療を提供できるよう努力して参ります。

診療実績

手術件数は例年400件前後で推移しています。2006年4月～2007年3月の新患者数1,319人、新入院患者数321人、手術症例数（眼）は437眼でした（表）。クリティカルパスの使用により、より効率的な入院治療が行われ在院日数も年々短くなっています。また、白内障手術に関しては患者様と相談の上、可能であれば日帰り手術も含めた短期入院での治療を行っております。

研究実績

2000年より政策医療ネットワークを構築し、国立病院機構東京医療センターと協力し、眼科診療におけるクリティカルパスについて「臨床眼科」に掲載発表しました。現在は白内障のQOLに及ぼす影響とEBMに基づくドライアイについての共同研究に参加しております。また、当院の治験センターを利用し積極的に臨床試験にも参加しています。

ご案内

外来は月曜～金曜の毎日です。ただし、火曜日と木曜日は手術日のため、担当医1名が診察にあたります。また、時間外・休日の患者様には24時間体制でオンコールシステムをとり、救急医療にあたっています。眼科領域の疾患に関してのご相談などございましたらいつでもご連絡ください。

表　眼科患者数及び手術症例数

	外来新患者数	新入院患者数	手術症例数
2004年度	1,137	290	397
2005年度	1,135	275	380
2006年度	1,319	321	437

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。
国立病院機構熊本医療センター　ホームページアドレス　http://www.hosp.go.jp/~knh/

新任職員紹介

救命・救急科
橋本　聡（はしもと　さとし）

2007年10月より救命・救急科でお世話になっております橋本聡と申します。

久しぶりに熊本医療センターで勤務することとなり、ようやく「初めまして」や「お久しぶりです」といった挨拶も一段落して参りました。2001年に熊本大学医学部附属病院を卒業後、精神科領域に足を進め、翌2002年から当院救命救急センター、2003年からの2年間を当院精神科で過ごし多くのことを学ばせて頂きました。その後、熊大こころの診療科で勤務を経て、関西にあります北斗会さわ病院で1年間精神科救急の実地臨床を学んで参りました。現在、熊大大学院大学臨床行動科学分野にも籍を置いており、精神科医療と救急医療の二つの分野を対象として、実地臨床と臨床研究両方をやっていけたらと考えております。当院、そして地域の諸先生方にもご指導頂きながら頑張りたいと思いますので宜しくお願い申し上げます。

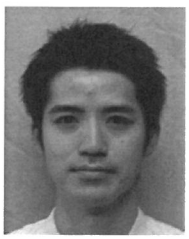
小児科
竹内芙美（たけうち　ふみ）

10月より小児科に勤務させて頂くことになりました、竹内芙実と申します。

2003年に熊本大学医学部を卒業後、同小児科学教室に入局しました。

その後、熊本大学病院で1年間研修し、宮崎県立延岡病院、熊本市民病院新生児医療センター、熊本労災病院、熊本赤十字病院と勤務させて頂きました。それぞれの病院によって病院の規模、地域性、特色などが異なり、多くのスタッフの方々、患者様、ご家族との出会いを通じて様々なことを勉強させて頂きました。小児科医5年目という短い経験なりにも、これまで辛いことや苦しかったこともありましたが、患者様やご家族の皆様には、いつも逆に元気とパワーをもらいながら、生命とは何か、家族の絆とは何か、といったことを教わっています。このような仕事に携わることができて有り難く思います。

この病院にはまだ赴任したばかりで、電子カルテや救急診療など慣れないことも多く、不安と緊張の連続です。スタッフの皆様に多々ご迷惑をおかけしているかと思いますが、少しずつ慣れて楽しく頑張れるようになりたいです。何卒よろしくお願い致します。



感覚器センター
皮膚科
新森大祐（にいもり　だいすけ）

2007年10月1日より当院皮膚科に勤務となりました新森大佑と申します。2005年に熊本大学医学部を卒業後、大阪にある高槻赤十字病院で2年間のスーパーローテート研修を行いました。2007年4月に熊本大学皮膚科・形成外科に入局し、半年間大学病院で勤務し、現在に至っております。皮膚科のcommon diseaseを多くみるとともに、皮膚科救急や手術を勉強できる機会に恵まれて嬉しく思っております。皮膚科医としての経験は非常に浅く、皆様にご迷惑をおかけするかもしれませんが、一生懸命診療に取り組みたいと思います。

ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

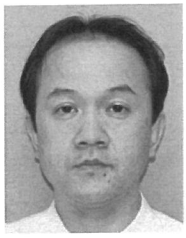
■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。
送付先　〒860-0008　熊本市二の丸1-5
国立病院機構熊本医療センター　『くまびょうNEWS』編集室まで

医学シリーズ No.149　産婦人科（No.5）

最近のトピックス

産婦人科領域のトピックス



産婦人科
永井　隆司

子宮頸癌の化学療法

1980年代に使用され始めたプラチナ製抗癌剤の導入により、卵巣癌患者の治療成績が著しく改善したのに対し、子宮頸癌の治療成績は、この20年程改善されていませんでした（図1）。そこで、現在、子宮頸癌の基本的治療法である手術療法と放射線療法に、化学療法を組み合わせる新しい治療方法への取り組みが注目されています。

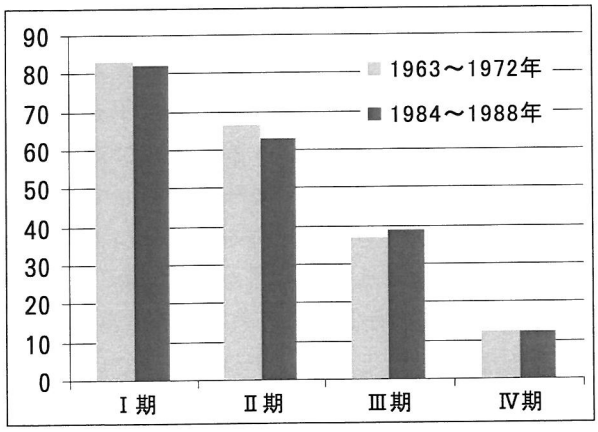


図1　子宮頸癌の進行期別5年生存率
（日本産婦人科学会 2001）

術前化学療法［NAC］

手術を行う前に、経静脈または経動脈的に抗癌剤を投与し、腫瘍を縮小することにより従来では手術の適応の無い腫瘍径の大きな症例の手術適応症例を増やし、また、リンパ節転移などの微小転移巣への全身効果を目的に行われます。投与薬剤はシスプラチンが中心ですが、その他薬剤との組み合わせも行われています。子宮頸癌に対するNAC療法の奏功率は70～80％と報告されており、当院におきましても、放射線科医との協力のうえ、動注療法を中心にNACを行い、ダウンステージングによる手術適応症例の拡大および根治手術のラディカリティの向上が見られています。

化学療法同時併用放射線療法［CCRT］

1992年2月米国NCIより「放射線療法を必要とする子宮頸癌患者においては、CCRTの適用を考慮すべきである」という主旨の勧告が出され、CCRTが無増悪生存および全生存を有意に改善することが示されました。米国と本邦における放射線療法の方法の違いや、対象症例の違いがあり、米国のデータをそのまま本邦に適応することに対しては議論の余地がありますが、現在、多くの施設がCCRTを導入しています。当院におきましても、抗癌剤投与量を慎重に検討し、2001年11月よりCCRTを導入しており、2006年度には計19名の進行子宮頸癌の症例にCCRTを施行し良好な結果を得ています。

術後補助化学療法

子宮頸癌根治術後のハイリスク症例に対し、本邦では放射線療法が補助療法として標準化されていますが、①術後放射線療法には副作用が多い、②照射野外の再発が多い、③再発時の治療方法の選択が困難である、等の理由より、術後補助療法として化学療法を取り入れている施設もあります。

再発症例に対する化学療法

子宮頸癌転移・再発病巣が手術切除もしくは放射線療法により制御出来ない症例は、化学療法の対象となります。これまでは、QOLを考慮し、副作用の少ない単剤療法が行われてきましたが、最も多く使用されているシスプラチンにおいても奏効率は20～30％程度（表1）であり、現在、GOGグループを中心として、この分野での標準治療を確立するため、多剤併用療法に対する比較試験が実施されています。

表1　子宮頸癌に対する単剤の奏効率（％）

シスプラチン	カルボプラチン	ネダプラチン	イフォマイド	パクリタキセル	塩酸イリノテカン	トポテカン
20～30	15	34	14～40	17	24	19

（日本婦人科腫瘍学会子宮頸癌治療ガイドライン案より引用）

研修医レポート

心臓血管センター
循環器科
坂本慶太（さかもと　けいた）

はじめまして。2007年4月より国立病院機構熊本医療センターにて初期臨床研修医としてお世話になっております坂本慶太と申します。

私は、最初の半年間は麻酔科・救命救急・外科で勉強させて頂き、10月より循環器内科でお世話になっております。毎回、慣れてくるのに時間がかかり緊張しながらも日々努力しております。

私が熊本医療センターを研修先として選択した理由と致しましては、1つにたくさんの新しい仲間と出会えるということです。私は熊本大学出身で、同期の研修医が大学からの協力型プログラムも含め当院には20人いますが、その内熊大卒が7人で13人は初めて出会いました。誰と話をしていても個性豊かで飽きることはなく、公私共にお世話になりっぱなしですが、自分もお互いに刺激し合える仲間の1人に成長できるよう努力していきたいと思います。また、様々な診療科を回れ、様々な疾患を勉強することができるのも理由の1つです。絶対数の多い一般的な疾患から、特殊な疾患・救急疾患までより多くの勉強機会を得ることができる事が自分にとってよい経験になると思いました。

あっという間に半年が経ち、すでに多くの方から御指導を頂きましたが、自分の事をしっかり見て指導して頂いているのが伝わり大変感謝致しております。

最後に、医師として人間としてもまだまだ未熟者ではありますが、一歩でも大きく前進していけるように努力していきたいと思います。今後とも御指導・御鞭撻のほど宜しくお願い致します。

消化器病センター
消化器科
坂田和也（さかた　かずや）

はじめまして。2007年4月より2年間の国立病院機構熊本医療センター専属のプログラムにて研修させて頂いている坂田和也と申します。あっという間に半年が過ぎ外科系の研修が終わり、現在消化器内科を回らせて頂いています。2ヶ月ごとに慣れてきたと思ったときには次の科に移動になるので、また一から次の病棟・科に慣れるのに大変苦労しています。

外科系は外科・麻酔・救命救急の順で研修をさせて頂きました。外科では主に縫合・結紮を学び、麻酔科では主に気管挿管を始めとする呼吸管理、薬剤・輸液負荷等による循環動態の管理、ルンバールを学びました。そのおかげで救命救急を回ったときに髄膜炎疑いの患者様にルンバールをしたり、CPAの患者様に気管挿管をしたり、切創の患者様に縫合することが出来ました。外科系での研修の回り方としては非常に良かったと思います。いろいろな手技を経験でき力を入れていたのは良かったけれど、病態の把握が不充分だと痛感しています。断片的な症状・検査異常に対して治療するのではなく、関連している病態に対して総合的に治療をし、その中でも優先順位をつけていきたいと考えています。勉強することがたくさんあり、どこから手をつけたらいいのか途方にくれることもありますが、日々疑問に思ったことを一つずつ解決していこうと思います。

指導医の先生をはじめ、いろいろな先生方や看護師の方々にご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

平成20年度 後期臨床研修医（専修医）を募集します

応募資格：平成20年3月31日までに臨床研修を終了する見込みの者または2年間の初期臨床研修終了者

願書締切：平成19年12月28日（金）

詳細はホームページをご覧下さい。http://www.hosp.go.jp/~knh/

研修のご案内

第83回　最新医学の知識講座（無料）
［日本医師会生涯教育講座5単位認定］

日時▶2007年11月7日（水）19：00～21：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

座長　国立病院機構菊池病院長　高松　淳一

「認知症の診断とケア　―チーム医療に必要な知識―」
熊本大学大学院医学薬学研究部脳機能病態学教授　池田　学

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

第75回　三　木　会（無料）
（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）
［日本医師会生涯教育講座3単位認定］
［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定］

日時▶2007年11月15日（木）19：00～20：45
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

1．アルコール性肝障害を合併し比較的大量のインスリンが必要であった2型糖尿病の1例
国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科　市原ゆかり、児玉章子、豊永哲至、高橋　毅、東輝一朗
2．高齢の2型糖尿病に発症した1型糖尿病の1例
国立病院機構熊本医療センター内分泌・代謝内科
豊永哲至、東野哲志、市原ゆかり、児玉章子、高橋　毅、東輝一朗
3．糖尿病を合併する虚血性心疾患とASOの外科治療
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター心臓血管外科　毛井純一、岡本　健、岡本　実

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長　東　輝一朗　TEL 096-353-6501（代表）内線705

第106回　月　曜　会（無料）
（内科症例検討会）
［日本医師会生涯教育講座3単位認定］

日時▶2007年11月19日（月）19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧
国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長　森松　嘉孝
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例呈示「院外発症CPAで社会復帰した拡張相肥大型心筋症の1例」
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科　原田　恵実
4. ミニレクチャー「線維筋痛症候群について」
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科　長倉　祥一

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長　河野　文夫　TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

第217回　初期治療講座（会員制）
［日本医師会生涯教育講座5単位認定］

日時▶2007年11月24日（土）15：00～18：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

「小児の消化器疾患」　座長　熊本県医師会理事　村上　幹彦
1．内科的疾患　国立病院機構熊本医療センター小児科部長　髙木　一孝
2．外科的疾患　熊本赤十字病院小児外科部長　寺倉　宏嗣

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費20,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

第87回　救急症例検討会（無料）

日時▶2007年11月28日（水）18：30～20：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

テーマ：症例検討「脳血管障害」
国立病院機構熊本医療センター脳神経センター脳神経外科医長　大塚　忠弘

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

2007年 研修日程表 11月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

11月	研修ホール	会議室	その他
1日(木)			7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
2日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
5日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
6日(火)		18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
7日(水)	**19：00～21：00 第83回 最新医学の知識講座 ［日本医師会生涯教育講座5単位認定］** **座長 国立病院機構菊池病院長 高松 淳一** **「認知症の診断とケア －チーム医療に必要な知識－」** **熊本大学大学院医学薬学研究部脳機能病態学教授 池田 学**		17：00 消化器疾患カンファレンス C
8日(木)	**19：30～21：30 歯科領域における救急蘇生法講座** **講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・ＩＣＵ室長 瀧 賢一郎 ほか**		7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
9日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
10日(土)	**13：30～17：00 第71回 ナースのための救急蘇生法講座〈会費制〉** **講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 ほか**		
12日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
13日(火)	19：00～20：30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C 19～21 泌・放射線科合同ウログラム C
14日(水)			17：00 消化器疾患カンファレンス C
15日(木)	**19：00～20：45 第75回 三木会** **（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）** **［日本医師会生涯教育講座3単位認定］** **［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定］**	19：30～21：00 有病者歯科医療研究会	7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
16日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C
17日(土)	14：00～16：00 第202回 滅菌消毒法講座《会員制》 「感染制御の現状」 鳥取県立厚生病院長（日本医科器械学会派遣講師） 藤井 昭		
19日(月)	**19：00～20：30 第106回 月曜会（内科症例検討会）** **［日本医師会生涯教育講座3単位認定］**		8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
20日(火)	18：30～20：00 病薬連携研修会	18：00～19：30 血液病懇話会（図）	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
21日(水)			17：00 消化器疾患カンファレンス C
22日(木)	18：30～21：00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会		7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
24日(土)	**15：00～18：00 第217回 初期治療講座《会員制》 ［日本医師会生涯教育講座5単位認定］** **座長 熊本県医師会理事 村上 幹彦** **「小児の消化器疾患」** **1．内科的疾患 国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝** **2．外科的疾患 熊本赤十字病院小児外科部長 寺倉 宏嗣**		
26日(月)			8：00 MGH症例検討会 C 16～18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17～18 小児科カンファレンス 外来
27日(火)	18：30～20：30 血液研究班月例会	18：00～19：30 血液病懇話会（図） 19：00～21：00 小児科火曜会	8：00 救急部カンファレンス C 15～18 外科術前術後症例検討会 C
28日(水)	**18：30～20：00 第87回 救急症例検討会** **「脳血管障害」**		17：00 消化器疾患カンファレンス C
29日(木)	**18：00～19：30 第40回 くすりの勉強会（公開）**	19：00～21：00 熊本脳神経疾患懇話会	7：50 整形外科症例検討会 C 17～19 循環器カンファレンス C 18～19 代謝内科カンファレンス M
30日(金)			8：00 消化器病研究会 C 8：00 麻酔科症例検討会 手 17～18 救急部カンファレンス C

（図）図書室　C 病院本館2階カンファレンス　手 手術室控室　別6 別6病棟　外来 小児科外来　M ミーティングルーム

問い合わせ先　〒860-0008 熊本市二の丸1番5号　国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501（代）内線263　096-353-3515（直通）